

①熊本市における路面電車の位置づけ、取り組み

熊本

熊本市長 大西 一史

2015年10月23日



熊本城



本丸御殿 昭君の間



桜の馬場 城彩苑

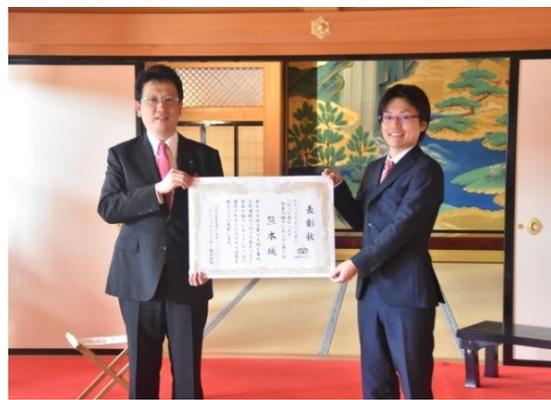
〔農業産出額(全国)平成18年度〕
熊本市は、全市町村の中でも
第8位(政令市中3位)。なす、
すいかは全国1位の産出額



TripAdvisor Gallery トリップアドバイザーの口コミ情報をテーマとし、スクリーンやウェブサイトで世界遺産に登録されていることもあり、観光スポットを沖縄観光のテーマにしている旅行者も多いようです

1位

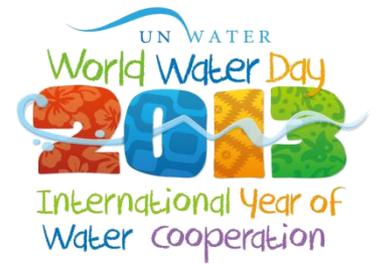
熊本城 (熊本県熊本市)



2013年 国連“生命の水”最優秀賞

主催 国連(水関連機関調整委員会)

「自然のシステムを利用した地下水保全」

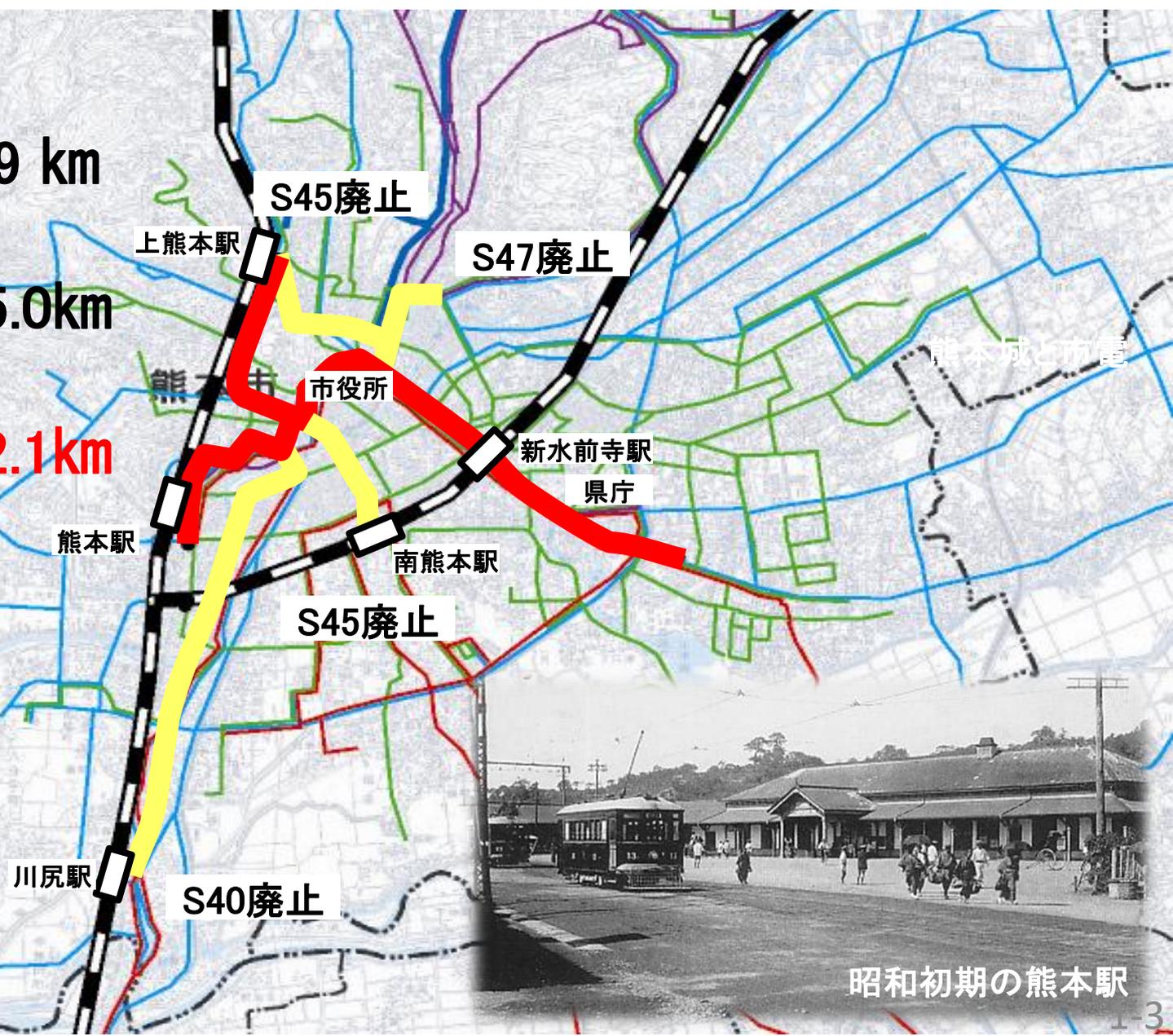


世界的口コミサイトであるトリップアドバイザーの「行ってよかった！日本の城ランキング」で3年連続1位！



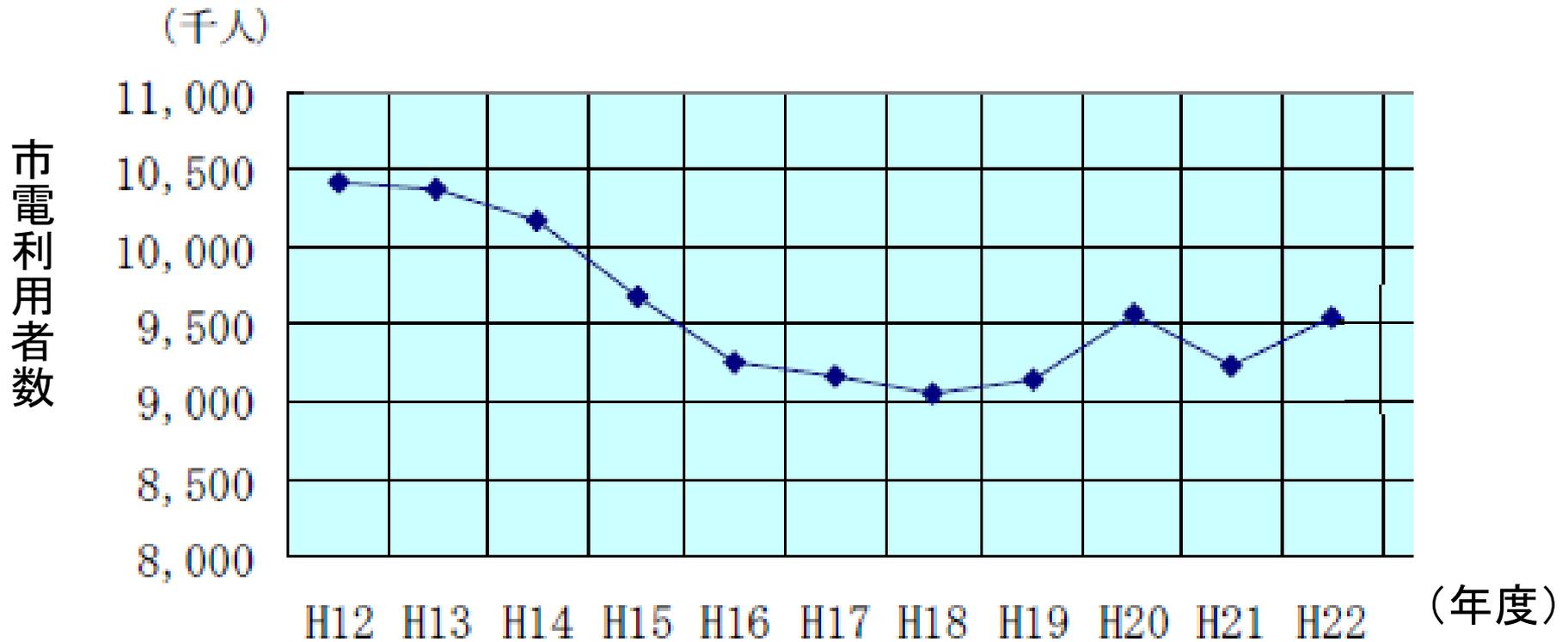
熊本城と市電

路線延長
大正13年 6.9 km
↓
昭和34年 25.0km
↓
昭和47年 12.1km



昭和初期の熊本駅

市電利用者数(年間)の推移(H12~H22)



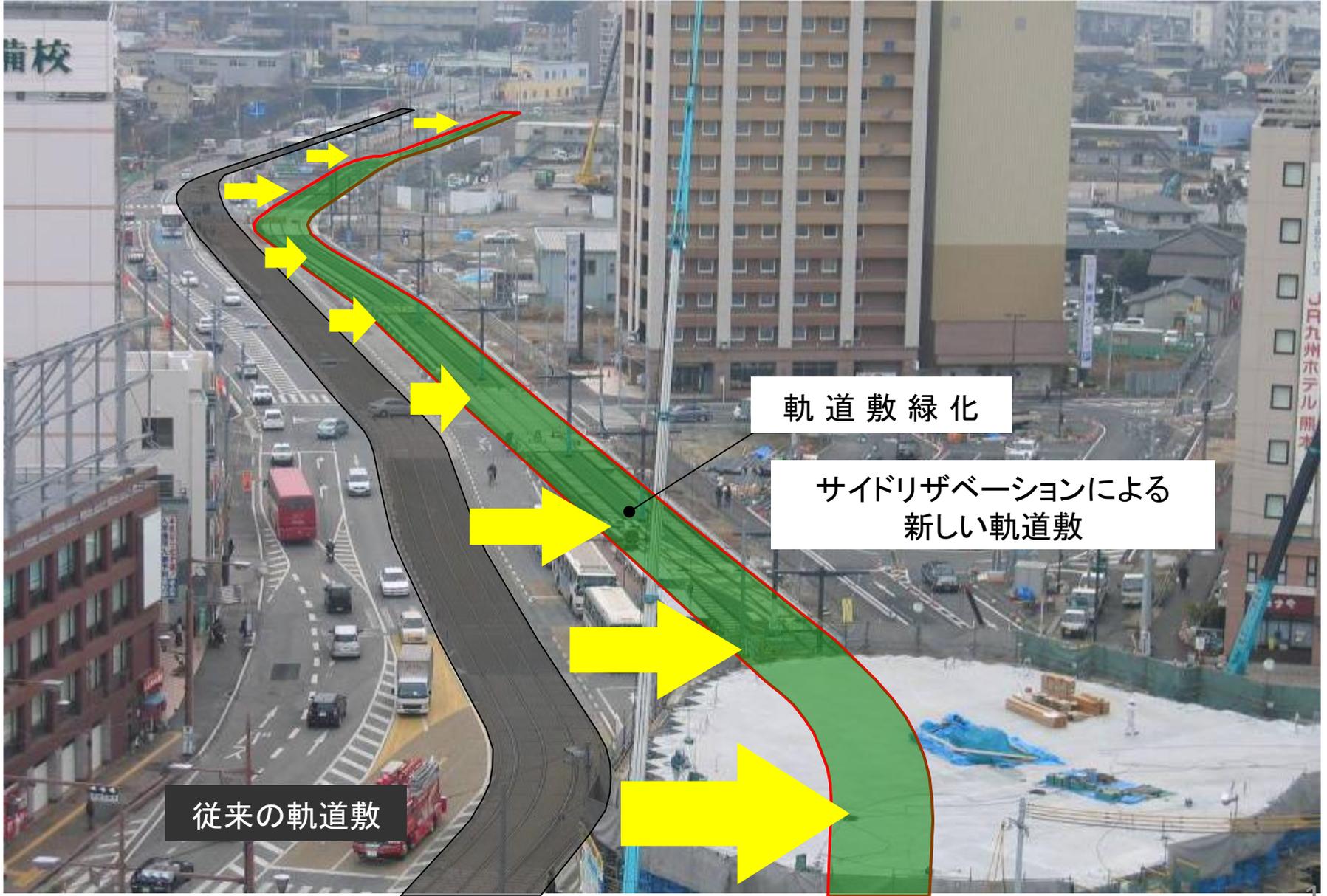
年度(平成)	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
利用者数	10,418	10,366	10,182	9,690	9,249	9,160	9,053	9,135	9,568	9,241	9,537
前年比(%)	-	99.5	98.2	95.2	95.4	99.0	98.8	100.9	104.7	96.6	103.2



軌道敷サイドリノベーション化

整備前





従来の軌道敷

軌道敷緑化

サイドリザベーションによる
新しい軌道敷

軌道敷サイドリザーベーション化

整備後



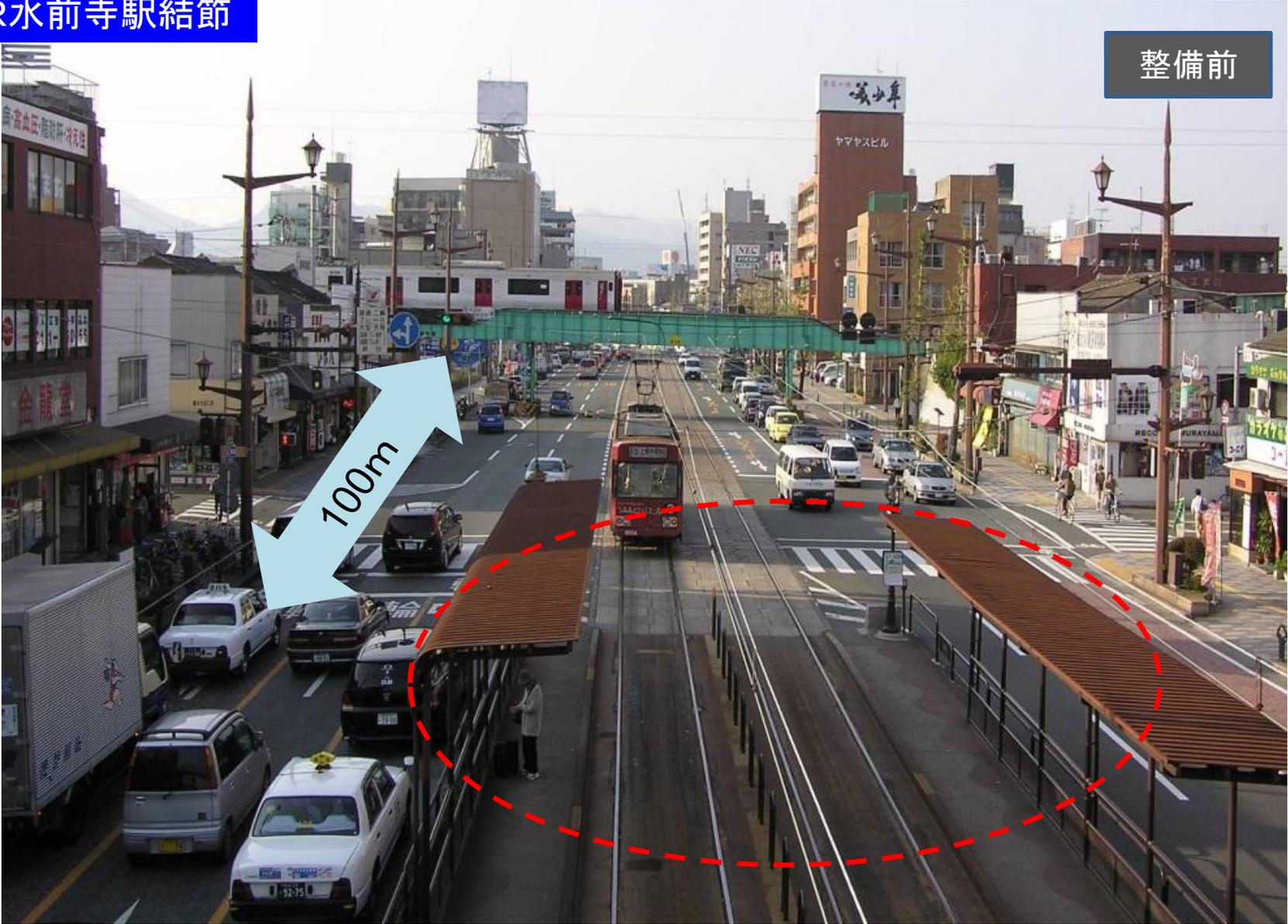
軌道敷サイドリザーベーション化

整備後



JR水前寺駅結節

整備前





JR水前寺駅結節

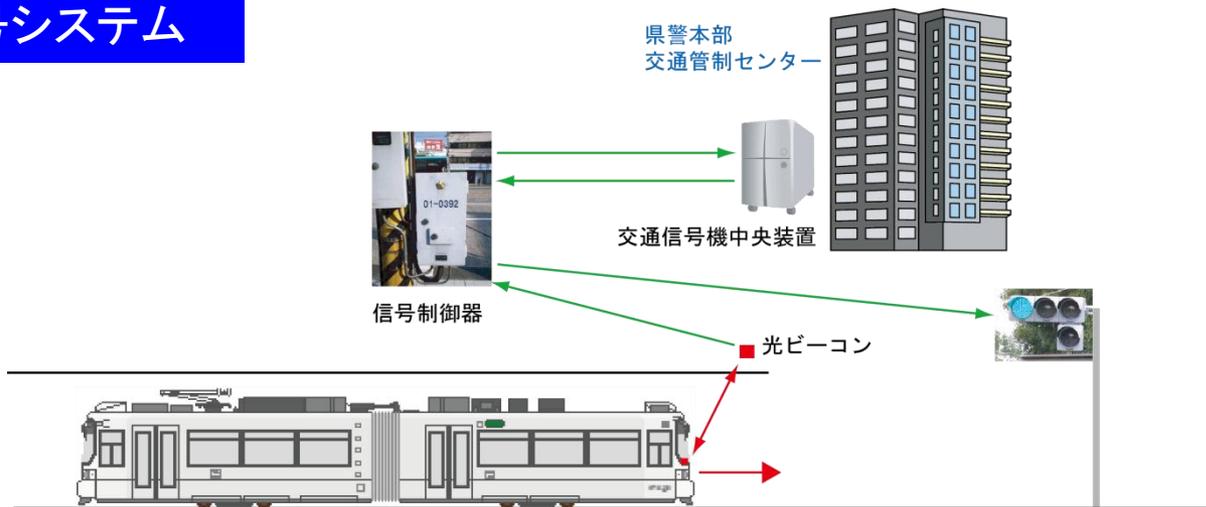
整備後



運行系統の変更と色分け



路面電車優先信号システム



全国相互利用ICカードの導入



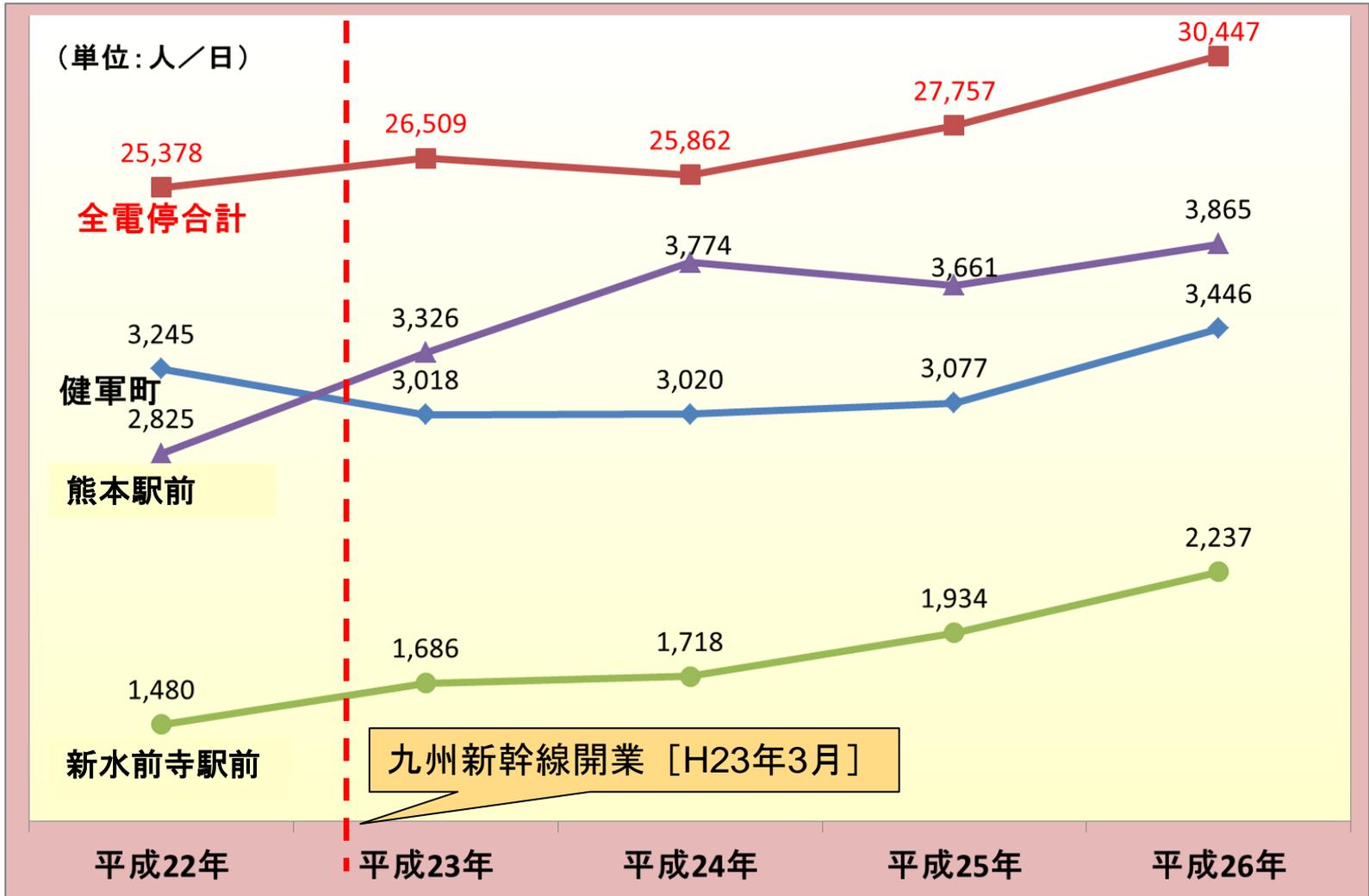
「でんでんnimoca」



運用開始記念カード

全国相互利用ICカードが熊本市電で利用可能に！

<p>SUGOCA (JR九州)</p>	<p>nimoca (西日本鉄道)</p>	<p>はやかけん(福岡市交通局)</p>	<p>ICOCA (JR西日本)</p>	<p>PiTaPa (関西民鉄)</p>
<p>toICA (JR東海)</p>	<p>manaca (名鉄・名古屋市交)</p>	<p>PASMO (首都圏民鉄)</p>	<p>Suica (JR東日本)</p>	<p>Kitaca (JR北海道)</p>



【電停毎の乗車人員の推移(乗降調査結果)】

②路面電車を活かしたまちづくり

熊本

熊本市長 大西 一史

2015年10月23日



都市計画(まちづくり)

公共交通

第2次熊本市都市
マスタープラン

公共交通
グランドデザイン

連携

立地適正化計画

公共交通網形成計画

人口減少等の社会情勢の変化を見据えた
多核連携型の都市の実現

■ 公共交通を基軸とした熊本型のコンパクトなまちづくり

- ◆ 地域再生計画：持続可能で創造的な多核連携都市の形成～熊本型のコンパクトシティを目指して～
- ◆ 公共交通と一体となったまちづくりを主軸に様々な分野の施策と連携し総合的に取り組む

① 公共交通の利便性が高い地域への居住機能誘導

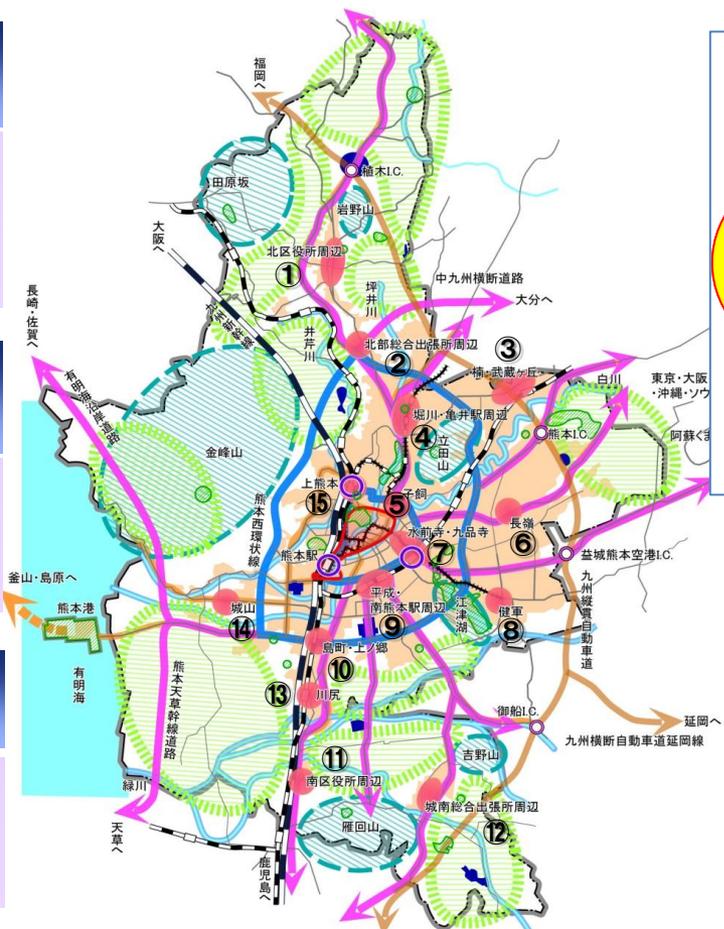
- 様々な都市機能が利用しやすい魅力的な市街地の形成
- 空き地、空き家の利活用や情報提供による誘導

② 中心市街地や地域拠点への都市機能集積

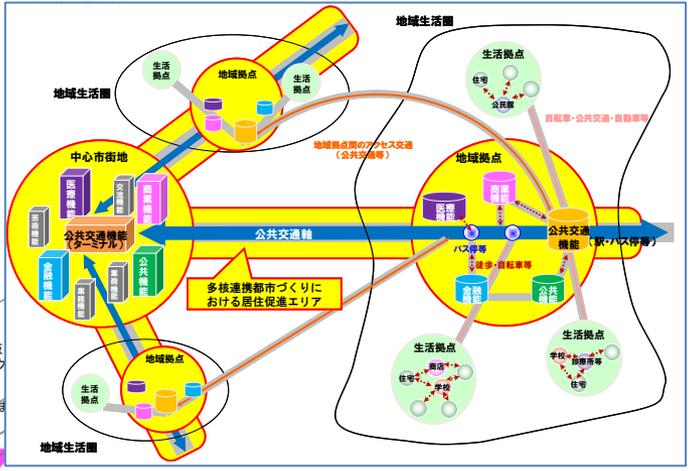
- 都市機能の立地に対する支援
- 空き家、空き店舗等の低未利用地の活用

③ 公共交通ネットワークの充実

- 交通事業者と連携した利用促進、意識啓発
- 定時性、速達性、輸送力の強化



多核連携都市づくりのイメージ



総理官邸での地域再生計画認定証授与式

基幹公共交通(鉄道、市電、幹線バス)の強化

中心市街地と15の地域拠点をつなぐ8軸を「基幹公共交通軸」と位置づけ、輸送力、速達性、定時性の強化を図る。



▲超低床電車



▲連節バス

日常生活を支えるバス路線網の再編

基幹公共交通を補うバス路線網を再編し、わかりやすく効率的な運行体制を確立する。



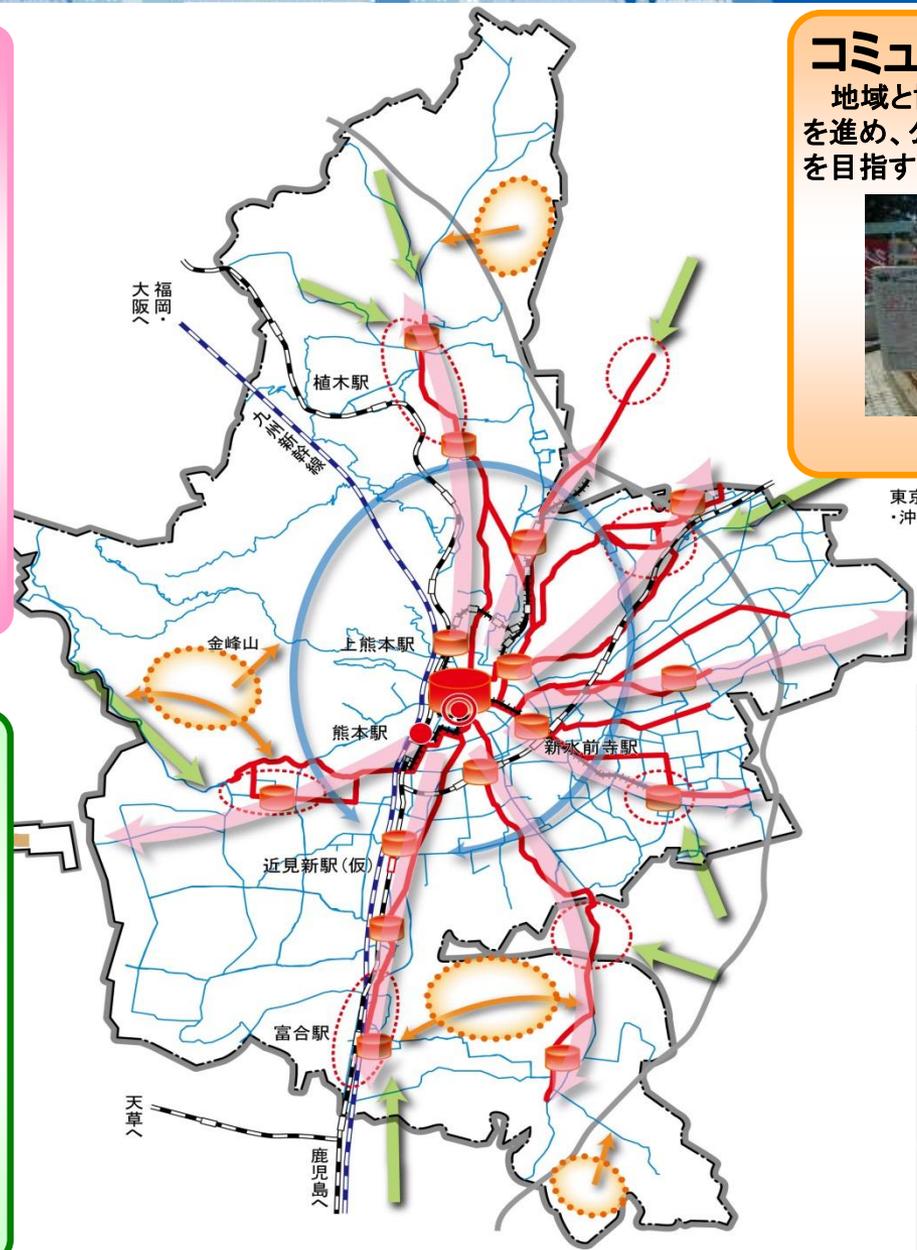
▲バス専用レーン(国道3号)

コミュニティ交通への対応

地域と協働で「コミュニティ交通」の導入を進め、公共交通の空白・不便地域の解消を目指す。

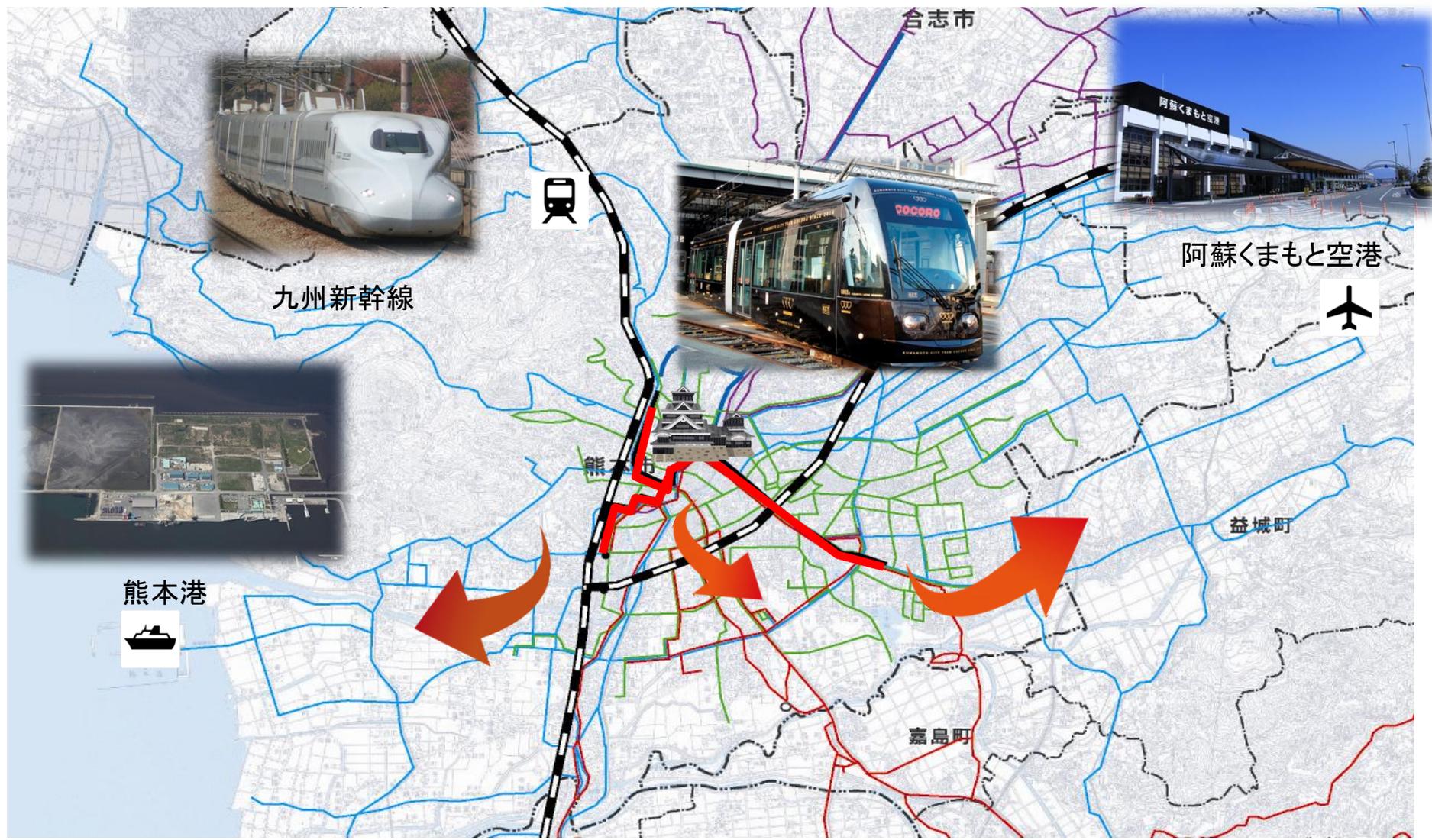


▲乗合タクシー



東京・大阪・名古屋
・沖縄・ソウルなどへ
阿蘇くまもと空港

凡 例	
	中心市街地
	地域拠点
	基幹公共交通軸
	幹線バス
	環状線バス
	その他の路線バス等
	支線バス
	コミュニティバス
	メインターミナル 交通センター
	サブターミナル 熊本駅
	乗継ポイント
	公共交通空白・不便地域
	新幹線
	J R
	熊本電鉄
	市電



◆今年度、市電の各方面への延伸可能性調査に着手

他の都市との差別化を図り、多くの人から選択される都市となるため「都市ブランド」化を推進



2014年10月 新型車両0800型

COCORO を導入



- ◇日本を代表するインダストリアルデザイナー水戸岡 鋭治氏のデザイン
- ◇熊本市の歴史・文化を感じる、懐かしくて新しい、伝統と誇りを表現できるデザイン
- ◇COCORO = 思いやりの「心」、おもてなしの「心」

COCORO の内装



メープル材を使用した内装



ウォールナット材を使用した内装

- ◇ 明るい木と濃い木を使うことで、一編成2車両で
二つの異なる空間を楽しめる
- ◇ 木の手触り、香りが今まで味わったことのない
エコロジカルな路面電車



テーブル上にはキャンディートレイ

③交流人口拡大と路面電車

熊本

熊本市長 大西 一史

2015年10月23日



- ◆ 現在、第7次総合計画を策定中。計画の策定段階から直接市民と意見交換し、計画に反映させるよう取組みを進めている（地域主義）
- ◆ 「熊本市まち・ひと・しごと創生推進本部」を設置し、総合戦略の策定も総合計画と一体的に推進

●新総合計画(H28.4~H36.3 8年計画)

【まちづくりの重点的取組】

(1) 安心して暮らせるまちづくり

- ①誰もが安心して子育てできる環境を整えます。
- ②「おたがいさま」で支えあう地域コミュニティを形成します。

(2) ずっと住みたいまちづくり

- ①コンパクトで利便性の高い都市をつくります。
- ②雇用促進、就職・就業を支援し、熊本に住み働ける環境を整備します。

(3) 訪れてみたいまちづくり

- ①伝統文化とエンターテインメントが共鳴するにぎわいを生み出します。
- ②自然と共生する恵み豊かな熊本を発信します。

●熊本市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (H28.4~H33.3)

【基本目標】

- ①誰もが安心して子どもを産み育てられるまちを実現する
- ②国内外から人々を惹きつけるまちを創り、いつまでも働くことができる雇用を生み出す
- ③多様な地域が形成され、安心して暮らせる地域社会を実現する

●連携中枢都市圏ビジョン (H28.4~H33.3)

●地域再生計画 (H27.2~H31.3)

●立地適正化計画 (H28.4~H37.3)

●地域公共交通網形成計画 (H28.4~H33.3)

- ◆ 桜町・花畑周辺地区（中心市街地）を一体的にデザインし、秩序ある景観を形成するとともに、一体的に利活用し、交流拠点都市にふさわしい魅力と賑わいを創出
- ◆ デザインコンセプトは「熊本城と庭つづき『まちの大広間』」



中心市街地や熊本城周遊バスへの無料Wi-Fi整備を推進



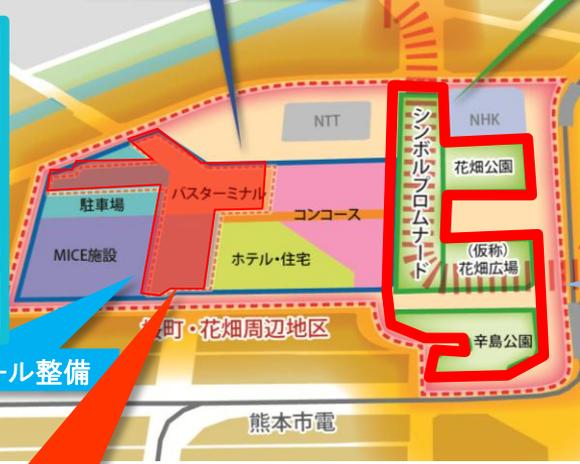
通町筋地区

桜町地区再開発予定地

オープンスペース



(仮称)熊本城ホール整備



西日本最大級の全天候型アーケード



(仮称)花畑広場

バスターミナル
バス網の拠点である
メインターミナルを更新

